

with-corona 医療用マスクなどの寄贈・貸与



創業大正11年



The Resilient Company

関係医療機関や介護福祉施設に感染症対策品を寄贈。



【医療機関への寄贈式の様子】

医療用マスク	16,000枚
非医療用マスク	93,500枚
※マスク合計 109,500枚を寄贈	
防護服	3,000着
フェイスシールド	1,000個
非接触型体温計	30台
サラモア(次亜塩素酸ナトリウム)	4,000ℓ
ポリエチレン製ビニール手袋	215,000枚
消毒液	1,000ℓ
ゴーグル	2,000個

○寄贈先…札幌医科大学、帯広厚生病院、帯広協会病院、北斗病院、帯広第一病院、開西病院など

○陰圧テント貸出先…帯広市医師会（PCRセンター）、帯広協会病院、北斗病院、開西病院

復星集団が道庁にマスクなど寄贈
中国の大手投資会社・復星集団（フオーソングループ）は、医療用マスクや防護服など計約3万6000点を道庁に寄贈した。
新型コロナウイルスが中国で急速に拡大した時期に、帯広市内の建設会社が同社のグループ会社にマスクなどを贈った。日本での感染の広がりを受けて、返礼で寄贈したという。
同社は「日本で一番感染者が多く、支援が必要なのは北海道だと聞いた。グループ会社がクラフメッド北海道トマムの施設を管理するなど縁が深く、少しでも力になればうれしい」としている。

1月に星野リゾート・トマム一連工事で関連のある復星国際（Fosun International Limited：中国上海市）へ、イデラキャピタルを通じて医療用マスク33,000枚・防護服3,000着を寄贈。

この返礼として北海道庁にマスクが寄贈されました。



【令和2年3月20日 十勝毎日新聞掲載】

with-corona 医療用陰圧テントの提供



創業大正11年



The Resilient Company

地域貢献活動の一環として購入し、地域の拠点病院などへ無償で貸し出しました。
また、PCRセンター設置に伴う貸し出しも行い、地域の安心、医療従事者の安全確保のために、様々な形で感染対策に協力しております。



【令和2年6月17日 北海道新聞掲載】



【医療従事者への説明状況】



【PCRセンター開設に伴う記者会見】



【令和2年9月18日 十勝毎日新聞掲載】



【陰圧テント内部】

医療用陰圧テントは、テント内部の気圧を外部よりも低くし、排気フィルターを通すことでウイルスがテント外へ出ることを防ぐことができます。また、内部では空気の流れを一方にするすることで医療従事者への2次感染が起こりにくい構造となっています。



【執務室の状況】



【工事現場事務所の状況】

- ① 新型コロナウイルスに対する事業継続計画（BCP）を定め、3月より予防対策を実施。
- ② 協力会社に対して、金融機関の協力により独自の経営支援相談窓口を開設。
- ③ 感染拡大防止の観点から、4月1日より全社員に対して特別休暇を付与。（本社支社勤務：5月31日まで、現場勤務：5月6日まで実施）
- ④ 施工中の全現場を対象に発注者並び関係者との協議のもと、可能な限り4月1日から5月6日まで休工とした。
- ⑤ 本支社に、体表面温度計測機及び亚克力板、次亜塩素酸 空間除菌脱臭機「ジアイーノ」、クレベリン、抗菌テープ、衛生抗菌マットを設置。
- ⑥ 検温ゲート及び検温サーマルカメラ、紫外線空気清浄機（エアーリア）を全工事事務所に設置。
- ⑦ 医療用陰圧テント5セット、ハイブリットエアーテント1セットを購入。

with/after-corona 建設現場における取組



創業大正11年



The Resilient Company

建設現場では、新型コロナウイルス感染症対策を契機にWebカメラ等の映像技術を活用した遠隔管理やICT活用技術等、i-Constructionの推進や建設DX(デジタルトランスフォーメーション)が加速しており、弊社も積極的にデジタル技術を活用し「建設現場の工場化」を目指します。

with-corona



【建設現場の遠隔確認】

これまでは、発注者の監督職員や会社の管理者等が直接現場へ足を運んで作業指示や建設物がきちんと作られているかを検査、確認していました。Webカメラ等の導入により、直接現場に行かなくても、インターネットを通して映像が確認できるので、いつでも何処でも現場の状況が確認できるようになりました。これにより、これまで掛かっていた移動時間の削減や人と直接接する機会を減らすため、感染予防対策となっています。

after-corona

現場で撮影

●宮坂建設工業のDX(デジタルトランスフォーメーション)

弊社ではBIM/CIM、5G技術の導入や現場でのAI活用により誰でもすぐに現場で活躍でき、少人数で複数現場が管理できるような建設現場のファクトリー化を目指します。

建設現場の工場《factory》化を目指す
(少人数で複数の現場管理を実現する)
フェーズ3



【工事現場のテレワーク管理】

- ▶測量は遠隔で(ドローンの遠隔操作)
- ▶ICT建機(遠隔操作)
- ▶施工状況や出来形確認の遠隔操作
- ▶BIM/CIMとバーチャルリアリティの融合
- ▶遠隔で施工管理ができるプラットフォームの構築

~2026

【ICT活用による省力化】

- ▶ドローン・地上レーザースキャナー測量
- ▶ICT建機(MC・MG)の活用
- ▶BIM/CIMの活用
- ▶電子決裁の導入
- ▶書類の完全電子化
- ▶リモートワーク環境整備(どこからでもサーバーへアクセス)
- ▶建設キャリアアップシステム

~2024

【業務変革 現場以外でできることは会社で対応し、現場時間をつくる】

- ▶業務洗い出し
- ▶実行予算の作成(所長作成から管理職及び、積算課で作成)
- ▶設計変更対応書類のアウトソーシング(ICTソリューション及びコンサルに依頼)
- ▶若手教育(育成シート、Eラーニング活用)
- ▶協力会社への教育徹底
- ▶請求書・稟議書・勤怠管理等の書類簡素化(現場ではなく会社で事務処理)

~2022